

橋詰良一 著

「家なき幼稚園」の主張と実際
より(十二)

第二十六 幼稚園の一般化

私の子どもの国の企ては、一面からみて幼稚園の一般化といえましょう。別の方面から眺めた幼稚園案、または子どもの国の案を、ちょうどこの書の起草中に大阪毎日新聞へ寄書したのがありますから、参考にここへ採録しておきます。

実をいえば、私の幼稚園はこの趣旨によって、全然一般女性団体の共同作業組織に変更してもよろしいのですが、女性団体の事業として幼稚園を経営する意味とは大差のあることを申添えて置きます。(以下抜粋)

▽若き女性と幼児の結合

私は、今ほんとに敬虔な心持ちで、清い、美しい、楽しい、そして永

久的な実事業の一案を女性界にすすめたいと思います。

女性界の中でも、特に或組織を持った女性団体―処女会、女子青年団、婦人会、学校母姉会、女子同窓会、女学校々友会―はもとより、立入っていえば現在の女学校にも一顧を得たいと願っている私案です。

娘と幼児の接触、これが本案の第一歩で、また最後です。要は「むすめ」という時代の若い女性と「幼児」という時代の児童とを相触れさせようというのです。

婦人会の仕事といえは、講話か講習、それも趣味の乏しい講話になったり、料理割烹といったような手技の習得を紋切型にしてみました。今の時代には、色彩の変っているだけでも一顧の価値があるとは信じてますが、特に昨今農村の研究問題になっている農繁期の託児所案を解決する一策としては、更に注意を喚起し得るものだと思います。

簡単な実行案 私の実行案はすこぶる簡単なもので如何なる山村、僻地でも直ぐに着手することが出来ます。

一、学齢以前の幼児を野や林に集めます。もちろん母姉に連れて来ても

らうのですが後は独りで一定の地に集つてもよし、また誘ひに行つてもよろしい。

一、幼稚園の保母のような仕事を処女会や婦人会の中の若い女性が受持つのです。

一、年長の婦人たちは、世話方になって第二線から後援をしますのです。

一、小さなオルガン、ござなどがあればよろしい。それを一定の集合地にする寺や社などにおいてもよし、小さな車で好きな所へ運んで行つてもよろしい。

一、そして、毎日（または或期日）林の下や、野の中を遊びまわらせておればよろしいのです。

これで何時でも出来るはずなのですが、いよいよそれを実行するためには、婦人会員の全体に向つて準備しなければなりません。

若い女性に出来るか 何も知らない（教育や保育について）若い女性で、果してこのような難儀な仕事が出来るとしようか。とは度々疑問を受けたことですが、出来ずとも出来ずとも、立派に出来ます。殊に、何も知らない若い女性だから出来ます。すなわち經驗という古い伝統や因習によって大人の欲求を子どもの世界に強しようとする無理解者よりも、純な若人が子どもには善き道連れです。そして純愛から起こる親切な扶掖には、老人の案じるほど放漫に児童生活を導かないだけの関心が自然に芽生えて行きます。接触の動機をさえ作つてやれば、自然愛を幼児に向つて燃焼させるところが女性です。愛の純なるを望めば望むほど女性の若く純なるものが望まれます。

女学生と幼児 私と同様の主張によつて、女学生自身のためにも、ま

た学校教育の効果を完成するために、女学生というお嬢さんたちの幼児と接触する機会を作りたいと願うものであります。大阪の市岡高等女学校同窓会の発起で、校内に幼稚園の出来たことは実に喜ばしいことだと思ひますが、特に自由に両者が接触して、両者の間に燃ゆる愛の白熱化の反映によつて女学生の心性浄化に影響するまでの機運の招来を望みます。

なるほど、女学校の教育科には児童心理もあります。家事科には育児科もあります。しかし私は、出来た子を育てる方法の考究よりも、出来た子の心理の考究よりも一歩先きに、子どもというものの貴さ、け高さ、美しさを理解させる急を感じるもので、人間としての幼者の眺めかたや児童愛の理解を閑却されておる女学校の教科に不満なきを得ないのであります。

要するに心理は学問です。育児は技術です。私のいう児童理解は宗教です。子どもを宗教するものでなければ遂に人間を宗教することは出来ないのです。

出来てからの子の育てかたは、子をわれと考えることの出来る母性愛によつて賢愚の別なく曲りなりにも成就されるが、妊娠や結婚に至つては、子どもを宗教する以前と以後とにおいて非常な差がある、これまた若き女性を幼児に触れさせて得ようとする祈願の大きな一因です。

第二十七 姉妹学校と娘の教育

私が子どもの国を中心にして児童愛へのいそしみを社会に波立

たせたいとする熱望は「姉様学校」という女性団体になってしま
いました。

姉様学校とはいってませんが、学校でも何でもない女性の団体
で、それが余り他の方面ではいってこない「児童愛」の理
解のため、また一面には「生活美化」を高唱するため、いろいろ
の会に誘導するのを異彩として、とも角も大阪自動車幼稚園創立
の時代から始めかけたものですが、最も簡明に本会の趣旨を書い
たものがあります。

『姉様学校』という婦人会は

無邪気な婦人の集りです。悠遠な意義を持つ集りです。姉
様学校はフロebel先生の母親学校を母よりも、もっと若い
時代の女性たちから始めようと橋詰先生の趣旨から生まれた
よき集いです。「児童愛」と「生活美」をモットーとする美
しい集いです。

姉様学校は左の事業を致します。

- 一、児童愛を理解する為の催
児童神性理解の会、児童と一緒に遊ぶ会、児童に関する社
会施設を見て歩く会、童謡、童話の会等
- 一、生活美を高調する為の催

旅行会、行楽会、趣味をすすめる会、運動講座、新三絃講
習等

一、雑誌「愛と美」の発行

以上を御覧下されば、会のアウトラインがとも角も知って頂け
ると思いますが、清らかな趣味の生活に若い娘たちを導きなが
ら、児童愛への感激に触れさせようとするのです。

会費も何も取らず、ただ端書によって結合しようと企てた会合
ですが、堅実な人が五百人以上は今でもシツカリとつながれてい
ます。(略)

第二十八 苦悶集

分らな過ぎた最初の先生

私の最初に来て貰った二人の先生、相応にニコニコした優しそ
うな先生でしたが、恐ろしいヒステリックな辞を時々振りまわさ
れました。

初めから無干渉主義で任せ切って、おのずからの接触よりする
光輝を見ようと望んでいた私は、出来るだけ抑損すると同時に園
長と職員などという階級を自覚せしめぬよう極度の友人主義発揮
に勉めて来ましたが、一か月もすると先生たちの剣幕が恐ろしい

ものになつて参りました。

「先生、いまだきオルガンは恐れ入りますネ、いかに貧乏幼稚園だといつても、小さなピアノぐらい買つては頂けないでしょうか」

「アー、またゴザですか。これを見ると、ほんとに乞食幼稚園の感じがしますヨ。どうか早く畳椅子を造つていただきたいものですね……」

こんな辭が毎日々々平気で繰返されるようになりました。実に初めの幼稚園は神の森と、オルガンと、ゴザと、休食用には絵馬堂のあるばかりでしたから無理ではなかつたでしょうが、私はこんな声を聞くごとに、ヤツと彫り上げた白木の神像に泥を塗られるような腹立たしさを感しました。私は尋ねました。

「貧乏幼稚園だの、乞食幼稚園だのという言葉は子どもの口から出るのですか、大人の口から出るのですか」

「若し先生の口からはかり出たものとすれば、子どもが信頼し愛敬している親たちを、その子の前で罵るにも等しいものではありませんか」

すると先生はいつでも笑つて、
「マッ、またやられましたナ」と下品な態度で自分の頭を叩いたりなどされました。私はこうしてある淋しさを感じ始めさせら

れたのでした。

ヒステリックな人にありがちな、善過ぎるような機嫌の日に限つて、笑い笑ひまた叱られるかも知れませんが……と前置きしては「貧乏、乞食」と口癖のように繰返されました。

新聞広告などを機縁とした、自由な自己推薦に意外の人材が求められると信じていた私も、この二人の先生だけには手古すりしました。

階級的の威圧によつてのみ職業業務の遂行を余儀なくせられて来た経験者に対して、急に純平等理想的を望んだのが誤りであつたかも知れないと思つてみたり、旧生活の習慣が抜け切るまでは詮方のないことかも知れないと考えたりして見ましたが、先生は依然として野の讚美者にはなつて呉れないのでした。

我が子を犠牲にしなければならぬのか

—— 略 ——

雀のお宿への大泥棒

私は籠に小鳥を飼つたり、箱に兎を飼つたりするよりも、出来ることなら鳩を放ち飼ひにしたり、深草にあるような雀の宿にしたり燕の宿にしてやりたいと祈つておりました。子どもたちのた

めに。

池田の宮の絵馬堂が傾いているので、有志の寄付で三間に四間という小さな集合所が出来た翌年のことでした。鳩を飼うとお宮さんを糞だらけにするというので遠慮して、その建物の棟へちゅうど雀のお宿になるような小さな穴を幾段もあげた巢になる宿を作ってやって「おっつけ雀のお父さんと母さんが幾つも幾つもやって来て、好きな穴をおうちにして、赤ちゃんを生むのヨ」と話してやりますと、子どもたちは大喜びで、毎日々々上を向いてはそればかりを待っていました。

と、可愛い子どもの願いを叶えるために、二番ひの雀が右の隅と左の隅の穴へ巢をつくって、朝から仲よく出たりはいったりしはじめました。子どもはもう夢中です。

そのうちに、小さな可愛い赤ちゃんの声がジーンと耳を澄ませると聞えるようになりました。私はほんとに嬉しくて嬉しくて会社への往きと帰りにもきまわって廻って来て、雀君を訪問していましたが、ある日来て見ると、二つの巢の穴がこわされて巢藁は無惨に引出されて、赤ちゃんも何もいなくなっているのに、ガッカリしました。

翌日になって、失望する子どもたちを慰める言葉もなかったのです。宮の前に建っている小さな家を守ってくれる人のないのを

見ました町の悪太郎が、桜から登ってこわしたのだそうですが、何でも開放的にしようとするわが子どもの国にも、サタンはしばしば脅かしに参ります。

そこらに作ってある砂箱の中へ小便をしたりするサタンもあるため、見るからいかめしい錠前を砂箱の蓋へかけなければならぬことになりました。

しかし、そんなことを請願巡査さんの考慮に入れて下さった話を聞いたこともないので、悲しいものです。

幼児を看板にしたり喧嘩の種にしては罰が当ります

ある婦人会の方たちが訪ねて見えて、是非とも、あなたの主義の幼稚園が作りたいから世話をして下さいとお頼みでした。私はいくども是に似た御照会やら御依頼をうけましたが、それに答えた時と同じように、この婦人たちへも明白に御答えしたのです。

「子どもを通じての御婦人たち、別の言葉で申せば、子どもごみみの御婦人には非常に真純な尊さを感じております私は、子持の母たちが集って幼稚園をなさるには賛成ですが、単に婦人会という団体が会の事業として幼稚園を選ばれることは絶対に反対です。そもそものお考えが、幼児というものを会の看板に用いようとするような不純さを含んでいると思われるからです。神のよう

な幼児を看板に乱用する恐ろしさもありますが、神さまを喧嘩の種にするような日が来たら、浅ましいいよりも、罰が当たりますから」

私はくりかえしくりかえし、此所の主意を論じておいたつもりでしたが、どうした聞き違いやら（わざと聞き違えた態度に出られるのかもしれないが）会員の初一念通り、会の事業として幼稚園が出来てしまつてあつたばかりでなく、私が園長になっておりました。知人の世話でもあり、断るよりもむしろ自分が幼児のための犠牲となつて、大人の紛争より起る影響を防御してやるのが忠実かもしれないと腹をきめました。そうして常に争いがちな女性の單純性（よき場合には單純美）を子どもの世界へ誘導して、包括的な社会の童心化に勉めて見ようなど考えて見ましたが、それは予想の通り駄目でした。開園式の最初から早くも厭わしき紛争が続発して、名誉欲の満足を自己の企望する点へ早めようとするような浅ましい争いが余りにも露骨なのに驚いてとうとう逃げ出してしまいました。

その後、同じような相談を引きもならず持ちかけられました。が、いつでもこの事例を話にして輕拳妄動をいまいました。すると、中には如何にも不満らしい顔つきで「君のために君の主義を宣伝してやろうとする親切が訳らないのか」といったような隠

語を弄する人があります。金を借りに行く人が、親切をさせてやるためだ、と豪語するのを聞きましたが、實際その人の心の底がそうかも知れないのだと考えると、私はいつでも感謝なしにはおられませんでした。そうして、何がなしに泣けて泣けて、仕方がない時がありました。

子どもを撲りつづける或家なき幼稚園

ある地方のあるお寺に「家なき幼稚園」というのが出来ていますが、そつと見に行つて、呆れましたと知らせしてくれた人がありました。それは随分高い月謝を取つて置きながら、先生も何もなしに、乱暴なお坊さんと、お内証らしい娘とが、子どもを集めてやがましいといつてはなぐり、真直ぐにしないといつてはなぐり、キヤッキヤ泣かせて、平気なんですから涙がこぼれました、という嘘のような事実を聞いて私はほんとに寒くなりました。

その人は真実わたしを思つてくれての話であつたのです。そして、これを防止するために「園名の登録をなさい」と強調されましたが、その親切を聞いてもまた寒くなりました。

若い先生の責任感

若い女性の純情を極度に信頼し、幼児との接触による自然教養

の可能を極度まで強調している私にも、時として淋しさを感じさせられることのあるのは、この若き女性たちの責任感という点です。ほんとに家庭の如く、その延長の如く思われるほどに和やかな幼稚園であってほしいと願う心が、何事にも無干渉にする結果かも知れないのですが、ちょっとした病気にも直ぐ欠勤する、しかも無届けで平気でやる。これだけはほんとにほんとに長い間の私の悩みでした。それを責めるも訓えるにも造作はないのですが、そうして「職業義務」という辞に触れさせるのを恐ろしいように思っていた私は、なにも言わずに訓えずに、自然にその責任感に目覚めてくれる日が、何時かは来得るものだとばかり考えながら、ほんとにかすかな暗示でもって啓蒙を求めて来たために永い苦悩になったのかも知れませんが、遂には私をして法一章を作るの止むなきに至らしめました。それはこの純情者をして誤った自由(放縦)への道を急がしめないための老婆心から――休まねばならぬ余儀なき場合は、手づかえの起らぬように早く各園へ届けて下さいませーこんなことでも、言わなければならぬほど今の女学生が分らぬものでありとすれば、女学生の根本教養に欠点を持っているのではないかと考えました。

おしなべて、何事につけても「責任」ということが明確に意識されていないように見えるのを純情礼讃者としての私は今も悩み

にしています。

驚き入った周囲の無理解

何をしてでも当事者以外は大抵無理解者ばかりだと思っておれば差支えないのですが、私の仕事には余りだと思われるような無理解が露出されました。

ごぞを持ち歩いて、野や川べりでお弁当を食べるのを見かねて退園させた母アさんがありました。「どうも、ああしてゴザの上でごはんを食べて、乞食のように歩きまわらせたら、その兎の行末の運命が案ぜられる」というのでした。これで高等教育を受けた母アさんです。

また若い女性を私の責ぶのを見て「幼児の世話ばかりは年をとった人でなければ出来るものじゃありませんヨ」と訳もなく反対する老婦人の多いのに困られました。

また「あの園に入れると子どもの言葉が悪くなります」といつて攻撃する人が今も非常に多いのです。イヤな言葉を奨励するのではないが、子どもが互に友人として交遊する子どもたち、特に大部分の子どもたちの言葉を、悪いといたりする理由がないと信じている私どもは、決して夫れを厭(いと)はしいとは思いませんため、変れば変るままに捨ててあるのを、大人の名譽心から攻撃される

のかも知れませんが、偏固になって死ぬまで生れ故郷の言葉を移住地の言葉に随伴させて行く自由を持たない年取った婦人から見て、英語でも独逸語でも、その日から話し合う事の出来るほどフレッシュな敏感な子ども言葉つかいを嫉視するなどはオコの至りだと思いがちでも、私はこの無理解には悩まされつめています。

最も困るのは、私の園へ入れておる子ども親で、どうしても園へ来ず、園の主張も聞いてくれずに、失望したような声「何も教えて下さらぬ」「遊ばせてばかりいてもらっては馬鹿になる」といったような無理解な声を振りまわして退園させたりする人のあることです。

また、私の主張する「自覚、自省、自衛、互助、互楽を得させるための子ども同志の世界」を思ってくれずに、単に放任にまかせる誤った自由主義として批難される有識者の余りに多いことは悲しいです。

私がいなくなりでもして、私の気持ちの薄く薄くなって行ったときなど「ソレ見ろ」と毒づく人のあろう日を考えると淋しくなります。

会計ばかりを苦にして子どもを後廻しにばかりされるような委員さんがあっても、園長を雇人のように考え兼ねないような委員さんがあっても、事実一厘一毛の酬を求めていないから平

気で主張も通しては行かれるが、有給の園長でも来る日になったらどうだろうかと思う日もあります。

府庁から御呼出しがあつて「早く、認可申請を……」と急がされたり、警察から呼出されて「自動車に税金をかけるぞ」と脅かされたり、ジッと瞑目すると、子どもの国の周囲を取りまいてい

る大人の国からは、怪しくドス黒い雲が被いかかっています。
(おわり)

